

東大見学会を終えて

今回印象に残った企画が二つあったため、二つ書かせていただきます。

・院生・学生（二高 OBOG）による懇談会

「東京大学」。聞いただけでもいかにも凄そうな響きである。果たして東大に通う先輩はどんなに素敵な方々なのだろうと、私はこの懇談会をとっても楽しみにしていた。今回、私は三人の先輩方にお話を伺う事が出来た。話を聞いて私は三人の先輩方の話に共通する信念が存在すると感じた。それは「自ら行動を起こす。」ということである。あたりまえの事のように思えて、実行することは案外難しい。先輩方がその信念に基づいて実行してきた行動や私たちへのアドバイスをここでは少し紹介しようと思う。

私は現在、慢性的な寝不足や朝起きれないことなどに関して多くの悩みを抱えている。一人目の先輩もまた、高校時代睡眠について悩みをもっていたらしい。先輩は授業中寝るのが絶対に嫌であった。しかし夜寝る時間もあまりとることは出来なかった。ロングスリーパーである事で得る利益とは何なのか。そして何時間寝ることで日中正常に体が働くのか。先輩は睡眠について自ら勉強をした。そしてその事柄に対するメリットデメリットを知り、自分が納得した上でショートスリーパーへの変更を図った。自分が悩んでいることから逃げずに、それと自ら向き合う形を作っていくことが大事であると先輩は語っていた。

英語についての悩みを抱える二高生からの質問に対して、二人目の先輩は、ただ漫然と受け身の姿勢で英語を読むのは良くないと言った。文の構成を論理的に理解し、フレームで読み解いていくことが大切であると話していた。また、与えられた課題をただこなすのではなく自ら英語に触れる機会を作っていくことが大事だと言っていた。

三人目の先輩は、東大などの難関大学に行くためには2年の夏以降、自分の行きたい学校専用の勉強をすべきだと語った。先輩は、2年の夏以降すぐにその勉強を始めなかったことを後悔しているらしい。二高は東北大学に比較的特化しているため、さらに上を目指す場合は学校でやっている内容以上のことを自ら行っていかなければならないとのことであった。また、受け身の勉強は絶対にいけないと明言し、自分のやりたいことや自分に必要なことを考えて主体的に行動を起こしていくべきだと話していた。自分で決定し、そこに責任を持つことが、自らの将来を切り開いていく手段なのだ強く感じた。

先輩方の話は、改めてこの人生で必要な志を示してくれたように思えた。日々多くの課題に追われ、高校の勉強に齟齬している私は、時々自分のしている勉強の意味を見失いかける。勉強が最終目的であるかのような盲目的な考えに陥ってしまいがちなのである。「大学には、圧倒的な人がある。高校の勉強は狭い。受験のためのパスポートだ。」と先輩が言った。高校の勉強は中学よりもずっと広く、面白い。しかしそれよりもずっと広い学びが大学にはあるのだ。先輩の言葉を聞き、目の前しか見えていなかった私の視野が大きく広がった気がした。私は今高校一年生である。卒業まであと二年半、長いように感じるがきっとあつという間なのだろう。あと二年半の生活を流されて過ごしてはなんと勿体無いことであろうか。「今しかできないことがある。」先輩方の話には、私は改めて「今」を大切にしなければならないと思わされた。自分で決め、自らアプローチをしていく。そうすることで日々がさらに有意義なものへと変わっていくのだろう。院生・学生（二高 OBOG）による懇談会は私の将来に具体性を持たせ、目標を持って未来へ進んでいくためのとても良い機会となった。この体験で感じた気持ちをずっと心に留めておきたい。いつかそれが多くの経験や気持ちと混ざり合い、私だけのブレない信念になるまで。

・東京大学オープンキャンパス

8月6日。その日私は生まれて初めて東京大学に足を踏み入れた。かの有名な赤門は堂々たる威厳を放ちながら私たちを迎えた。敷地内に入っていくと、清々しい木々の中に歴史を感じさせるゴシック様式の建物がどっしりと構えており、「ああ、これが、日本で初めて設立された近代的な大学なのだなあ…。」としみじみ感じ入らざるを得なかった。まっすぐ通った広い道を歩いてゆくと、行く先に安田講堂があるのが見えた。東大のシンボルとされるだけあって、安田講堂はまさに圧倒的な存在感を放っており「東大に来た」という実感を大いにわかせてくれた。東大の建物はどれも伝統を感じさせる趣で、「こんなところで学べたら、どんなに素敵なことだろう。」と思わせてくれた。

東大オープンキャンパスでは様々な学部の模擬講義を受けた。中でも印象に残っているのは理学部天文学科の模擬講義である。模擬講義では系外惑星についての話を聞いた。ドレイクの方程式によると、現在、銀河系内の通信可能な地球外生命体はなんと $N=10$ で十体もいるらしい。アメリカなどでは実際に地球外生命体と通信をするために、地球から宇宙へ電波を送信したりしている。惑星とは恒星の周囲を主に恒星の重力の影響を受けて公転し、自らはほとんど発光しない天体のことである。宇宙の中には多くの恒星が存在し、その周りには多くの惑星が存在する。現在発見されている系外惑星の数はおよそ 2000 個であるが初めて発見されたのは 1995 年と最近で、そこから猛スピードで系外惑星が発見されていったらしい。1995 年まで系外惑星を発見する技術が無かったのかということそうではない。科学者は系外惑星を探す際、太陽系と似たような形のものを探していた。しかし太陽系とは違う、恒星との距離が近い惑星が宇宙内には存在していたのだ。科学者は先入観によりそういった惑星たちを見落としていた。そうして、系外惑星の最初の発見者となったのは、20 年間ずっと系外惑星を探し続けていた科学者ではなく、ただ星を探していた人であった。それからは先入観が無くなり、初めて発見された系外惑星と同じような惑星たちが多く発見されるようになった。模擬講義を行ってくれた教授は、これは科学に先入観があってはいけないということを証明する事例だと話していた。私も全くその通りだと思った。模擬講義は私にとってとても興味深いもので、知的好奇心を刺激された。将来のことを考えろと言われるとどうしても職業のことばかり考えてしまい、「理学部は果たしてどんな職業につながるのだろう。研究者になれるのはほんの一握りであるし。」とあってしまいがちであった。しかし、この模擬講義を受けて、やはり自分は未解明の謎を解きあかすということに感動と興奮を覚えるのだと改めて気づいた。そして、その気持ちは大切にすべきものなのだと思った。

東大オープンキャンパスでは国内トップの学校の雰囲気を感じることが出来た。この素敵なキャンパスで、国内最高レベルの学問が日々行われているのかと思うと、胸が躍った。そして、将来に対する期待と楽しみもより一層広がった気がした。今回のオープンキャンパスで進みたい道を絞っていきたいところではあったのだが、さらに興味の幅が広がる結果となった。しかしそれは悪いことではないと、前向きに受け止めようと思う。将来に向けて、視野が広がったことはこれからいろんな道を考えていくうえでプラスに働いてくるはずだ。東大見学会という企画に参加して、本当に有意義な時間を過ごすことができた。協力してくださった企業やOBOG、大学などに深く感謝したい。そして、この企画を進めてくださった先生方にも深く感謝をしたいと思う。